

試験研究成果普及情報

部門	内水面	対象	研究・行政
課題名：夷隅川および養老川におけるカワウの食性			
<p>[要約] カワウによる食害の実態を把握するため、夷隅川および養老川において捕獲したカワウの胃内容物を調査した。捕食していた餌生物の種類、大きさ、時期が明らかになり、効果的な食害防除対策を検討する際に必要とされる基礎的な知見が得られた。</p>			
フリーキーワード カワウ、食性、夷隅川、養老川			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター	内水面水産研究所
	協力機関		
実施期間	2007年度		

[目的及び背景]

本県は関東でも有数のカワウ生息県であり、河川・湖沼においてカワウの飛来状況は確認されているものの、食害の実態は把握されていない。そこで、効果的な食害防除対策を検討するための基礎資料とするため、夷隅川および養老川において捕獲したカワウの胃内容物から餌生物の特徴を明らかにした。

[成果内容]

- 1 2003年4月～2007年8月までに捕獲したカワウの胃内容物から、夷隅川では魚類10科22種および甲殻類1種が出現し、養老川で魚類5科12種および甲殻類2科2種が出現した。両河川とも生息魚種の46%が餌生物となっていた。
- 2 餌生物の大きさは、全長では最小がオイカワの34mm、最大がニゴイの387mm、体重では最小がオイカワの0.3g、最大がオオクチバスの610gであり、捕食されていた魚類のサイズの範囲は広がった。
- 3 オイカワは、両水系内の河川および湖沼において、ほぼ周年をとおしてよく捕食されており、重要度の高い餌生物であった。
- 4 アユは、両河川において春に餌重要度指数が高く、放流されたアユ種苗が捕食されているものと推測された。
- 5 アユ、オイカワ、ウグイ、ワカサギなどの漁業権対象種の捕食が確認された。

[留意事項]

[普及対象地域] 養老川、小櫃川、小糸川、湊川、夷隅川

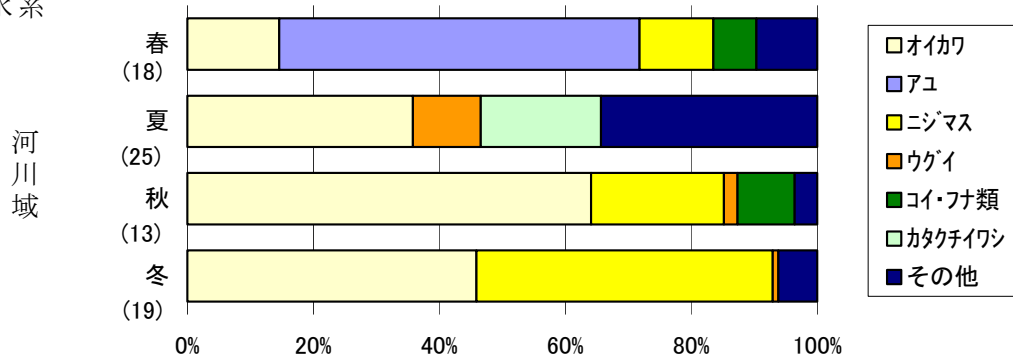
[行政上の措置]

カワウによる食害状況が明らかになったため、2007年度より夷隅川、養老川において、鳥獣保護法における有害鳥獣としての捕獲が許可されるようになった。

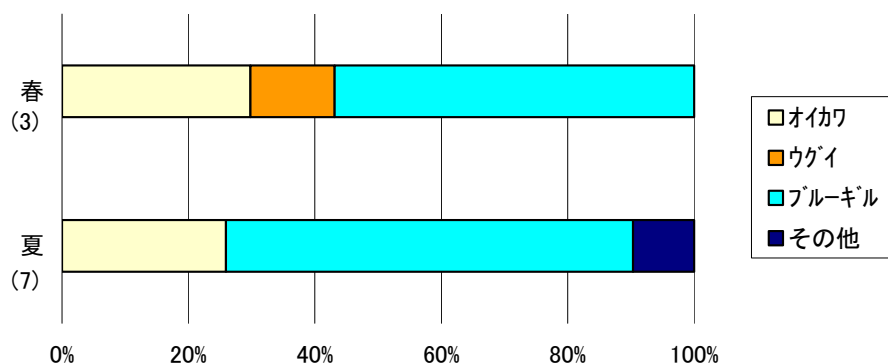
[普及状況] 2007年度から湊川においてカワウによる捕食量調査を実施。

[成果の概要]

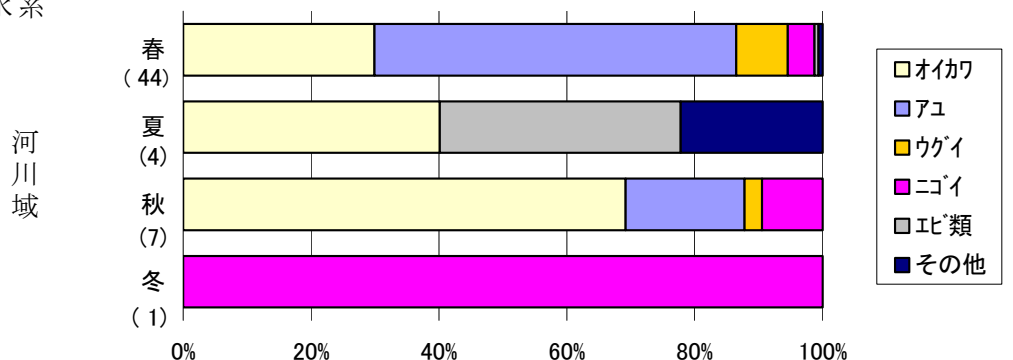
夷隅川水系



湖沼域



養老川水系



湖沼域

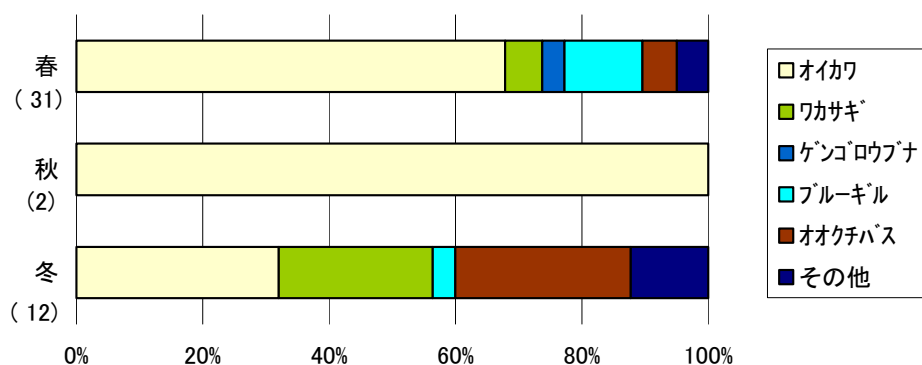


図 餌生物の餌重要度指数の組成

注：（）は調査羽数

[発表及び関連文献] 藍・尾崎（2007）：夷隅川水系および養老川水系におけるカワウ *Phalacrocorax carbo hanedae* の食性．千葉水総研セ研報（2），43-51

[その他]